

4月16日～18日 第115回日本病理学会総会（札幌市）に参加しました。

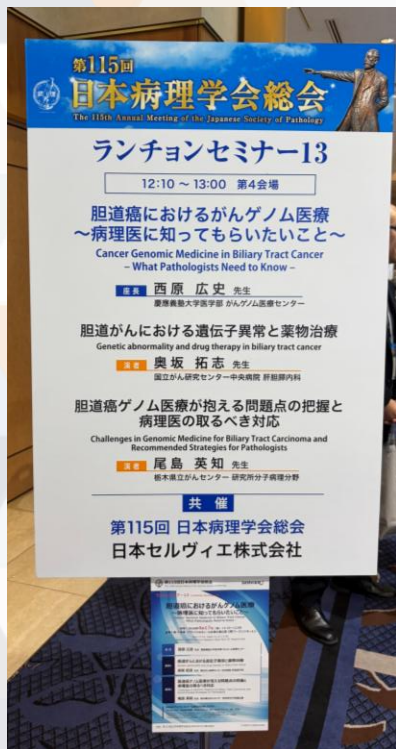


2026年4月 尾島、阿部、三浦、藤倉は、北海道札幌市で開催された「第115回日本病理学会総会」に参加いたしました。

まだ朝晩に早春の肌寒さが残る北の大地でしたが、学会会場は全国から集まった病理医の熱気に包まれていました。期間中は、日頃の研究成果の発表や最新の知見の聴講に加え、諸先生方との対面での交流を通じて、多角的な視点から病理学の深淵に触れることができました。この学会で得た知見やネットワークは、今後の私たちの大きな財産となります。日々の診断・研究において、より質の高いアウトプットを継続できるよう、チーム一丸となって努力してまいります。（尾島）

4月16日～18日 第115回日本病理学会総会（札幌市）に参加しました。

尾島は、4月17日 日本セルヴィエ株式会社共催ランチョンセミナーにて講演しました



日本セルヴィエ株式会社共催ランチョンセミナーで、『胆道癌ゲノム医療が抱える問題点の把握と病理医の取るべき対応』と題して講演させていただきました。

本セミナーでは、慶應義塾大学の西原広史教授に座長を務めていただき、国立がん研究センター肝胆膵内科科長の奥坂拓志先生のご講演に続いての登壇となりました。この領域のエキスパートであり、かつ以前の職場で大変お世話になった先生方と共に、薬物療法の大きな転換期を迎えている胆道癌ゲノム医療の最前線について情報共有ができましたことは、私にとっても大変光栄な機会でした。会場には多くの先生方にお集まりいただき、本領域への関心の高さを改めて実感いたしました。貴重な機会をいただき、心より感謝申し上げます。（尾島）

4月16日～18日 第115回日本病理学会総会（札幌市）に参加しました。

阿部は、4月18日一般口演 45 骨軟部：臨床病理系 で研究成果を発表しました。



高齢者の四肢軟部肉腫で最も多い**粘液線維肉腫**について、GLUT1の発現と腫瘍微小環境との関係を一般口演で発表しました。座長の齋藤 剛 先生から、多くのご質問を頂き、大変参考かつ勉強になりました。現在、本研究内容は論文として投稿準備中です。
(阿部)



Myxofibrosarcomaの予後層別化における GLUT1染色の意義と腫瘍微小環境の検討

GLUT1 improves FNCLCC risk stratification in myxofibrosarcoma and identifies mosaic/zonation patterns with distinct vascular microenvironments

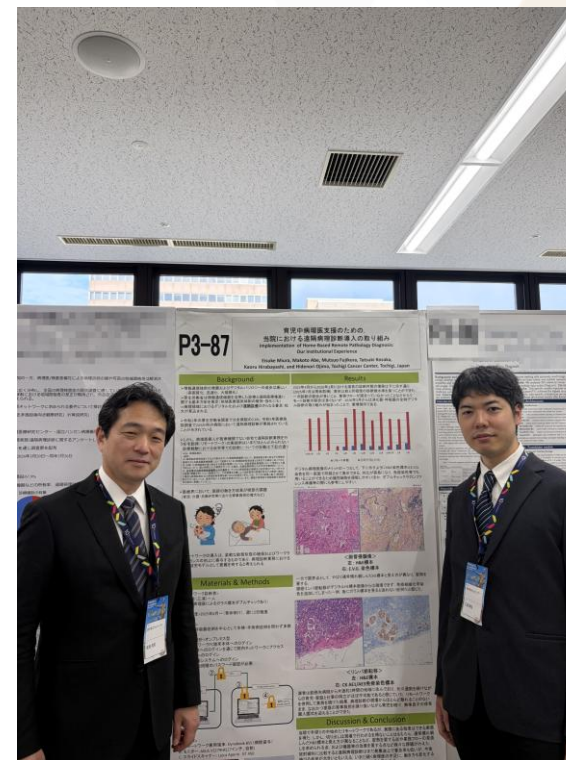
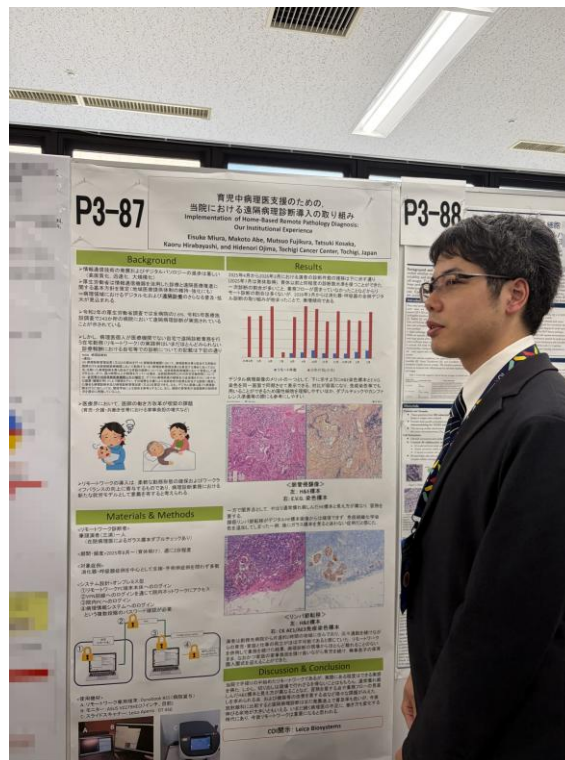
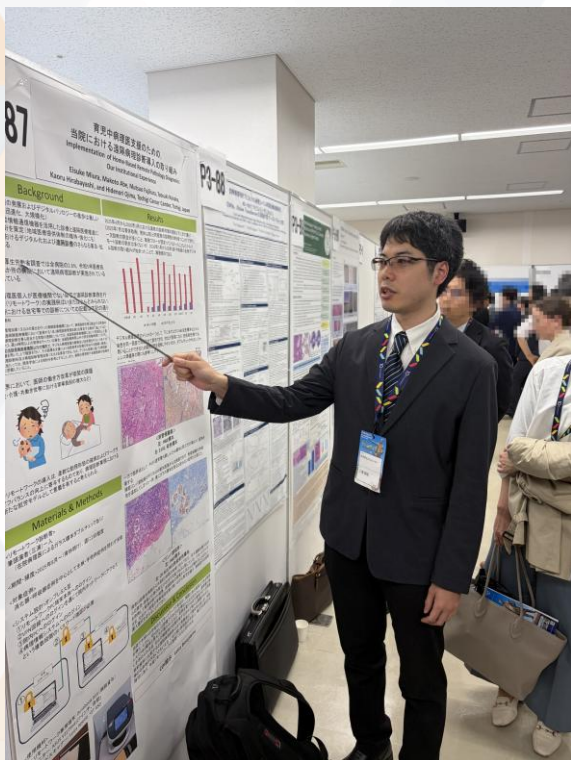
阿部 信、三浦 瑛祐、藤倉 陸生、堀川 大介、山崎 剣、尾島 英知
栃木県立がんセンター研究所 分子病理分野



夜は海の幸にラーメン、ジンギスカンと、札幌グルメも満喫しました。
(阿部)

4月16日～18日 第115回日本病理学会総会（札幌市）に参加しました。

三浦は、4月18日ポスター（一般）90 デジタル・遠隔病理において「育児中病理医支援のための、当院における遠隔病理診断導入の取り組み」について発表しました。



他施設のデジタル病理診断の実践例の発表がある中で、当院における取組について発表しました。習熟期間、情報セキュリティの担保、通常の鏡検との違い等多数の質問があり、関心の高さを感じました。まだ国内で普及していない早い段階で遠隔診断の実践をできたことは貴重な経験であり、実現に向けてご尽力いただいた関係者の皆様に心より感謝いたします。（三浦）

4月16日～18日 第115回日本病理学会総会（札幌市）に参加しました。

4月17日 Meet the Legend 1 長村義之 先生

『留学のすすめ My pathology started by studying abroad』を聴講いたしました。



長村先生が今まで病理学と共に歩いてこられた、医師人生の軌跡を拝聴いたしました。

慶應義塾大学の学部生時代から留学を見据えて英語を研鑽され、定期試験すら英語で解答されていたというエピソード（それを受け入れる当時の教授陣の懐の深さにも驚かされました）、そして長年の留学生活で築かれた数多くの貴い人脈、帰国後の病理医のプレゼンス向上に向けた多大なるご尽力など、どれも胸を打つものばかりでした。

豊富なお写真と軽快な語り口で綴られる数々のエピソードに、共に拝聴しておりました小無田先生ともども深く感激いたしました。私のような世代の人間にとっても、胸が熱くなるような素晴らしいご講演で、「これからも精進し続けなければならない」と強く決意を新たにする機会となりました。長村先生、素晴らしいご講演を本当にありがとうございました。（尾島）

ご講演後、記念撮影

左から 尾島、長村義之先生（東海大学名誉教授／日本鋼管病院／慶應義塾大学医学部客員教授）、小無田美菜先生（国際医療福祉大学病理診断学教授）

4月16日～18日 第115回日本病理学会総会（札幌市）に参加しました。

4月16日 国立がん研究センター病理診断科OB会



1次会 左から 尾島、前島亜希子先生（東京大学医科学研究所病院准教授）、谷口浩和先生（帝京大学病理部）、九嶋 亮治先生（滋賀医科大学医学部病理学講座 名誉教授）、松原亜季子先生（公立公賀病院病理診断科科長）、笹島ゆう子先生（帝京大学病理部教授）、杉田真太朗先生（函館五稜郭病院診療部長）

2次会から参加の 蔦 幸治先生（関西医科大学病理学講座教授 写真中央）

昨年につき、今年も前島亜希子先生のお声がけによりOB会が開催されました。

皆さんは各方面で目覚ましい活躍をされていますが、この日ばかりは仕事の話はさておき、自らの健康状態の告白（こればかりは歳には勝てません……）や、日常の「あるあるネタ」といった他愛のない話題で大盛り上がり。ちなみに、女性陣は総じて持病知らずで元気いっぱいだったのが印象的でした（笑）。

前島先生、素敵な機会をありがとうございました。来年もぜひお願いします。横浜でお会いしましょう！（尾島）

4月16日～18日 第115回日本病理学会総会（札幌市）に参加しました。

4月17日 南口 早智子先生（藤田医科大学医学部 病理診断学講座教授）を囲む会



左から 尾島、三浦、南口先生、藤倉、阿部

栃木県立がんセンターの仲間と打ち上げに向かった店で、驚きの再会がありました。そこには藤田医科大学病理の皆様が既にお集まりで、私が南口先生に気付きお声がけしたところ、なんと南口先生が私たちのテーブルに合流してくださることに！

急遽、南口先生を囲む会となった宴席は、先生の軽妙な関西弁トークと病理への熱い情熱、そして教育者としての真摯な一面に触れる大変有意義な時間となりました。参加した栃木の若手メンバーにとっても、大きな刺激をいただいた一生の思い出になったことと思います。

それにしても、かつてヒースロー空港のラウンジでばったりお会いしたことがありましたが、まさか夜の札幌でもばったりお会いするとは……。奇遇にもほどがありますね！（尾島）